

縦走」という記事などを読んで感銘を受けたからである。（「日本アルプスの縦走」は後に『日本アルプス縦断記』という本に収蔵された）

その河東碧梧桐の登山には大正2年の黒部川からの白馬岳登頂があるが、「日本山岳会に所属しない文学者の登山としては異色」（山崎安治『新稿 日本登山史』）と評されるほど、かなり探検的な登山であったと言える。しかしこの「日本アルプス縦断記」を武田久吉は酷評している。

狛犬購入について

狛犬を一括購入したのは伊藤孝一に他ならない。ところがリストのように赤沼千尋と伊藤とが購入したように変わってきている。それは赤沼が著した『山啄木鳥』の中で「吾々が」焼酎一斗と金一封で購入したと書いていることが原因で、それがどんどん事実化して行ったから。ただ、これは伊藤興産が倒産したことなど複雑な事情を覆い隠そうとする心情と、実際赤沼の蔵に置かれていた事実から、そういう筋書きにしたのではないか、というのが五十嶋さんの見解である。

随筆における事実の表現

こうした文献から事実が変化してしまうことに関して、大町山岳博物館の見解は「随筆の記述全てを事実とみなし、無批判に『史料』として扱うことは慎まねばならない」と言っている。立山博物館も随筆を史料として扱う時の「陥穽がここにある」と。五十嶋さんは、小説や随筆についての一般論を元としつつ、随筆においては「虚構が許されるのは感想・感情の表現のみで、事実そのものを押し曲げることは出来ない」と認識していると述べられ、その辺の意見を近藤緑さんに振り向けられた場面もあった。博物館のような考え方では登山史は成立しない。随筆で事実を述べる部分は資料足りうるとの五十嶋さんの見解でした。

講演用の手持ち資料も作られ、熱く語っていただきました。伊藤孝一についてもっと知りたいと思ったお話でした。五十嶋さんありがとうございました。（写真：小泉義彦、文：荒井正人）

5月例会 関塚さんのお話し「思いつくままに」

開催日：5月19日（土） 13時～ 集会室

出席者：20名（会員外2名、後掲写真参照）

2月にお怪我をされて急遽ピンチヒッターとして南川さんにお話しいただいてから約3か月。お元気になられ、気候も良くなったこの日に実現した関塚さんのお話しです。冒頭富澤代表よりこの経緯の説明と、横山厚夫さん、南川金一さんが聞きに来ていただいておられることの紹介がありました。

日本山岳会の長老のこと、カメラ、西洋磁器の3つのことについて思いつくままに語っていただきました。と言っても、資料もご用意いただきましたので、ここでは資料に無い部分を中心にまとめています。（写真や図柄もある資料です。ご請求は荒井あてご連絡ください）

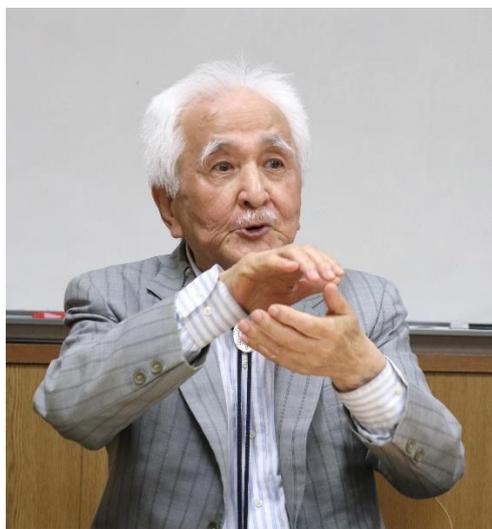
<思い出に残る山岳会の先輩>

まず10月に山水会で話した、私の会った長老たちについて。2番目は、そんな話は誰も聞きたがらないよと娘に言われたカメラの話です、と前置きされて始まりました。

三田幸夫さんはボーっとしているように見えて観察力の鋭い方。でも皆に慕われた。山田二郎さんが登高会で不満が出たりすると、三田さんの所へ行って話す。黙って聞いているだけだが山田さんは満足して帰ってくる。そんな癒し系の方だった。山岳界ばかりでなく親交が広がったが、吉田茂の長男で随筆家の健一とはお酒を通じての付き合い。吉田茂は黒松白鹿の辰馬酒造の山県氏を厚生大臣に起用したが、彼は海運会社の社長でもあった。酒造では販売しない「天下の春」という旨い酒を造って吉田茂に献上していた。私は海運関係の業界紙の記者をしていたので山下汽船の総務部長にその酒が手に入らないかと頼んで入手し、三田さんの所に持って行くことにした。三田さんは先約があるのに、その酒を飲みたいということで、約束を断った、というようなことがあった。

次に中村てるさん。1975年にK2への遠征話があった時、ぜひ隊員にしてくれと新海さんに掛け合ったら、じゃあ穂高に登ってきてくださいと言われ、かなり高齢だったが本当に岳沢から前穂に行った。ところが紀美子平で怪我をして行けなくなった。この時のヘリ代金が50万だとか山研で聞いた。中村さんはお金持ちだからと多めに請求されたのではないか。

西堀栄三郎さんとは海運会館で開く毎年恒例のパーティーで1978年にお会いした。原子力船「むつ」のエンジンは西堀さんが設計しているが、不具合があり廃船になりそうだったので、パーティーに来る海運議員に陳情のためやってきていた。結果的に商船に活用できなかったが、その時に、自分は船のオーナーだと聞いた。2本マストで船体が黒で、船首に金の唐草模様があるが、たぶん一番茶を運んでくる帆船カテゴリーサークのマネをしたのではないかと思う。



山田二郎さん。1985年、御在所で自然保護全国集会があり、副会長として初めて出席した時にご一緒して色々話をすると山中湖にモーターボートを持っているということだった。器用な人で、田邊壽さんのスケッチ個展の時の額縁は山田さんが作ったし、そこに2万5千分の1の地図を元にボール紙で作ったパノラマも展示していたが、中々の出来栄えだった。

今西壽雄さんとは、関西支部創立50周年のお祝いに行った時にお会いした。まだ自分はペーパーの時だったが、梅田丸ビルの喫茶店に連れて行ってくれた。マナスルの写真ではギャルツェンが撮った今西さんがプラトールを登る写真が一番良いという点で意見が一致した。その後、きじ鍋の店に行ったが今西さん、折井さんと同じ上座に座らされた。

<カメラのお話し>

続いてカメラのお話に移り、ドイツのライカやコンタックスを追いかける日本の光学メーカー、ニコン、キャノン、旭光学などの取り組みの歴史から、カメラの仕組みに関する技術的なことなど、専門用語もポンポンと飛び出して、その知識の高さと記憶力には皆感服した様子でした。

<西洋磁器について>

さらに3つ目の話題は、好きな西洋磁器のことで、カラーコピーの資料に基づいてのお話し。それに続いてスクリーンにルーブルの装飾芸術美術館の写真やご自分のコレクションの写真を映しながら説明をしていただいた。この話題でも年号などスラスラと話される歴史への造詣の深さ、磁器についての知識の深さなどに、皆感心しきりであった。

お話の終盤に、山本良子さん、渡部温子さんからの甘い差し入れが配られ、質問時間も設けて和気

あいあいの雰囲気となったが、話は次第に戦争体験、あるいは終戦前年に上高地に行ったことなどに移っていった。ここでも事細かに記憶されていることにびっくり。お元気な関塚さんの魅力をたっぷりと感じさせていただいた2時間となりました。

なお、この時のことが印象深く、次号会報に書いていただくこととしていますので、ご期待ください。(当日の資料ご請求は荒井あてご連絡ください。写真：小泉義彦。報告：荒井正人)



平成30年5月 緑爽会例会 関塚さん講話 2018.5.19

荒井正人 大島洋子 平野紀子 鳥橋祥子 小林敏博 渡邊貞信 西谷隆亘 小原茂延 鳥田 稔 深田森太郎 小泉義彦
渡部温子 川口幸子 田井具世 松本恒廣 横山厚夫 関塚貞亨 山本良子 富澤克禮 夏原寿一

6月山行 箱根 明神ヶ岳

実施日：6月9日(土)

参加者：8名(6ページ写真参照) 担当：荒井正人 サブリーダー：渡邊貞信

昨年5月に企画するも悪天候により中止となったため再度計画したものである。下見の結果、安全で少し楽なルートに変更した。タクシーを使うことで登山口の標高は約680mまで上がった。それでも山頂までは500m弱もある。それに、いくら日が長い時期とは言え、前夜に雷鳴まで響くような雨も降っており、道了尊への長い下りは滑りやすいことが予想されたので心配もあった。あとは天気だが、これは神頼みだった。

梅雨の合間の好天に恵まれて

石塚 嘉一

箱根の外輪山にある穏やかな山容の明神ヶ岳の山行は、昨年企画されたのが雨で中止になったので、今回は、そのリベンジということで、ちょっと勢い込んで出かけた。小田急線小田原駅から、8人そろって箱根登山電車で湯本へ。そこからタクシーに分乗して宮城野の登山口に10時頃到着。

梅雨の合間の山行なので、下見をされたリーダーの荒井さんが、予定していた大雄山・道了尊から登るコースを、標高差800mの登りの滑りやすい道、宮城野に下る急な道を心配して、逆に変更されたのだ。

登山口からすぐに急登が始まった。リーダーの荒井さんを先頭に、サブリーダーの渡邊さんがしんがりゆっくり登っていく。道はひどく悪いというほどでもないが、ところどころ岩や木の根を掴んで、大きく足を上げないといけない。ひたすら登る。

明星ヶ岳分岐までがんばれば快適な尾根道歩きになるのを期待して500mの標高差を登る。元気な川口さんと富澤さんが、新旧の自然保護委員長らしく、登山道脇に見かける草花の名前を言いあって、そのたびにわれわれは一息つくことができる。

登山口から1時間ほどで、明星ヶ岳の分岐に着いて、2度目の休憩。ここからは、木々の間を通る気持ちよい尾根道になり、ところどころ、コアジサイや白いウツギ、白と紅いのが混ざったハコネウツギかニシキウツギが目立つようになり、赤いヤマツツジもまだ残っている。急な山道にヤマボウシの白い花が見頃で、紅い花が混ざったのや、シクラメンのように4枚の花びら（本当は総苞片）が立っているのが珍しくて、疲れた足をしばし止めて見とれる。

左側が箱根の町で、大涌谷が白い煙と見えるようになったあたりで、草地の間に、川口さんが、2cm程のフデリンドウに似た春リンドウの一種らしい白いリンドウの株がいくつもあるのを見つけて写真を撮ったが、正しい名前はまだわからない。

分岐からさらに1時間ちょっとで明神ヶ岳下の道了尊への分岐に出会う。帰りはここから下るのだ。頂上までは、標識に10分とある。ここに田井さんと荒井さんを残して、山頂に向かった。低木とカヤトの緩やかな登り道を行くとやがて、広場のような高原風の山頂には、すでに数組の登山者たちが昼食を終わりにかかっていた。2時間半で登ってきたことになる。そんなに悪くないペースだ。明神ヶ岳標高1169の標柱の前で登ってきた6人で記念写真を撮って、弁当を食べた。



山頂の6人（写真提供：渡邊貞信）

山頂からは富士山、丹沢山地、相模湾などが望めるはずだがこの日は右前方にこんもりとした金時山だけがくっきりと大きく見えた。大涌谷の左奥には駒ヶ岳など箱根の山々が重なって見える。

帰りは、分岐で田井さん、荒井さんと合流して、道了尊へ下る道を急ぐ。杉や檜の間の、深くえぐれた急で、雨で濡れた山道を下るので、滑らないように、丸太の階段なども注意して越えて、廃屋みたいな見晴らし小屋にたどり着き、そこからまた、大雄山最乗寺のわきに出るまで一苦労したが、予定より1時間ほどの遅れで、無事下山。道了尊のバス停から大雄山駅へ、そこから小田原に出て、荒井さんの目当ての店に入らず、その隣の店で「反省会」をした。ちょっときついけど、楽しい山行でした。

小林さんが、最後尾でサポートしてくださり、瀬戸さんが上りも下りも涼しい顔で歩いておられたのが印象的でした。途中の神明水（じんみょうすい）のところでは、渡邊さんが水を汲んできてくださったので一口飲んだが、ガイドブックに、衛生上飲まない方がよいと書いてあるのを、帰ってから見つけた。

（えーっ、そうなのですか！ だいたい飲んでしまいました。なおコースタイムは割愛します：荒井）

郎氏で、43名という大世帯の委員会だった。その頃の委員のうち、松丸秀夫、渡邊正臣、国見利夫、奥野道治、田部井淳子等の皆さんが鬼籍に入られ、今健在なのは関塚貞亨、近藤緑、渡部温子、それに私ぐらいになってしまった。田部井さんを除いては皆緑爽会発足当時のメンバーである。

大森さんの羽賀観を引用すると、正義感溢れんばかりの、興奮するとトゲのある言葉が遠慮なく飛び出す、世の中の妥協に飼いなさらされている身にとっては頼もしく感じられる云々。1991（平成3）年の自然保護全国集会での「山岳会の自然保護の基本理念」に関する討議において彼の「長年にわたり自然保護行政にかかわった者としてみれば、JACは極めて大きな存在。だからJACこそ自然保護の発信源としての役割を果たすため基本理念は必要」との発言が決め手となった。

2013（平成25）年頃より体調を崩され目下入院加療中とのこと。早くお元気になられるよう祈念します。

日常は 悪罵雑言 交わせども 妻の来院 愛しく嬉し
吾が余生 断じて癌には 渡さぬと 脳裏に浮かぶ 若き日の山

文中の短歌は、羽賀さんが緑爽会会報に寄せられた多くの作品から、私が選んでみたものです。

「スキー」「海外登山」「+α」

瀬戸 英隆

昨年の三月、富澤代表の故郷である榛名山麓を訪れ、標高352mの浅間山に登る緑爽会の山行に参加した。その帰路、お二人の新入会員から質問をいただいた。お一人は渡邊貞信氏で「この会はスキーはやらないんですか？」であり、もうお一人は小清水敏昌氏で「海外登山の計画はないんですか？」であった。ご質問であり、会への提案でもあるとこの時受け止めた。

既にあれから1年以上が経過したが、筆者はその間、この二つを忘れることは無かった。ただ会計係という幹事の任務の最中であり、また少々体調を崩していたこともあって、この問題を今日まで表に出すことはなかった。幸い皆様のご理解をいただき、その任務から外れたので、改めてこの二つの件を考えたいとペンを取った次第である。

まずはスキーから。今更言うまでもなく、スキーは積雪期登山の基礎をなすもので、大変重要であり、かつ単純に滑降だけでも随分と楽しいものだ。筆者はまったく下手だが、若い頃は冬となればツアーとグレンデを結ぶルートでよく登り滑っていた。例えば万座から白根経由で草津に入るように。しかし、年齢を重ね、かなり重荷となってスキーから離れて今日に至っている。海外の件とも重なるが、冬のスイスで滑ったらどんなに楽しいだろうかと思うと気持ちの高揚を抑えきれない。いいご提案だと思っている。

一方、海外登山は、いろんな意味でハードルが高い。経験の有無、経費、言葉・・・。
しかし、山を目指す以上海外は避けて通れない通過点と考える。最終的にはヒマラヤの未踏峰があるが、そこまで考えなくても前述のスイス、カナダ、オーストラリア等々、選ぶのに苦労する程、道は開けている。また行きたい！と切実に思う。が、筆者はこの海外登山で、生涯忘れることの出来ない辛い思い出がある。緑爽会に入る前に所属していた「M」会でヒマラヤ登山を目指し、登頂して無事帰国したのだが、計画段階で会の山行としては認められず、個人山行に格下げされたのだ。

理由は、もし何かあれば、会長の家に報道陣が山を成すからだと言われたからだ。考えられないことだったが、行くことを最優先にして実行に移し、成功して帰国した。「M」会は退会した。今、その「M」会は「当会は海外登山もやっています」と新入会員にアピールしている。

外国に行くことはそれなりに難しいが、このスキーと海外、一度会の議題に取り上げて皆さんで考えてみてはいかがだろうか。山岳専門のツアー会社の企画もいろいろあるようだから。敢えてお二人のご提案を紹介した次第。

最後に筆者からも提案。東京オリンピックで正式種目となった「クライミング」はいかが？多くのインドアがある。重ねてご検討いただければ幸いである。これ即ち「+α」

～～《予告など》～～

7月暑気払い

日時：7月21日（土） 13時～ 集会室 会費：1000円

お弁当を用意します。おもたせ大歓迎です。

当日は「歓談会」として、皆さんに近況のみならず、最近のJACについて思うこと、緑爽会への思い等々、大いに語りあいたいと思います。なお、8月は休会です。

参加申し込みは下記へ。お弁当を用意する関係もあり、7月15日までお願いします。

<連絡先>夏原寿一

9月山行：9月29日（土） 富士山周辺 立山展望台でダイヤモンド富士を眺める

担当：近藤雅幸 歩程約4時間 詳細は次号



10月講演会：10月19日（金） 18時～ 104号室

演題：自然エネルギーに関わって35年（現状の課題を含めて）

講師：森武昭会員

会費納入の件：新年度会費<1500円>については以下の方法で納入してください。

- ・振込の場合：郵貯銀行から振込 10000-18539041 「リョクソウカイ」
他金融機関から振込 008-18539041 「リョクソウカイ」

- ・切手の場合：82円切手を19枚（82円×19枚＝1,558円）を下記にお送りください。

会計担当 〒206-0811 稲城市押立 488-40 渡邊貞信

一名簿の充実に向けて

引き続き「携帯番号」「(PC) メールアドレス」について、差し支えない範囲でお知らせください。

- ・連絡先は上記、夏原さんの連絡先迄お願いします。

----- 編集後記 -----

毎年この時期になると水害のニュースが入ってくる。最近の異常気象や火山活動に、何に対してこんなに怒っているのだろうと神様に聞いてみたくなる。人間が自然を壊しているからだろうか、などと思ったりもする。

五十嶋さんの紀要を読み、膨大な資料・文献からこうした論文、考察ができる過程を想像すると、大変なことだと思う。冒頭の報告は恥かしい限りです。関塚さんのお話も、カメラや西洋磁器の話はなかなか文字にするのは難しいと痛感。お許しください。

<次号予告>8月27日発行の主な内容

報告：暑気払い 寄稿：関塚さんの寄稿を予定 <皆さんからの投稿をお待ちしています！>